

神戸層群の化石産地と さまざまな植物化石



ヌマミズキ属の一種
大型で葉身が20cmを超えるものもある。二次脈は不揃いで鋸歯に入るか葉縁でループする。



チョウシンフウ
三裂片が多く、五裂片の葉も産出する。鋸歯は細かく葉柄は長い。裂片の長いヤベフウも産出する。



メタセコイア属の一種
葉は線形で羽状に対生する。互生するのは同じスギ科のセコイア属やヌマスギ属など。



ハンノキ属の一種
卵形～楕円形で、鋸歯は低く不整。二次脈は鋸歯に入る。



ハコヤナギ属の一種
皮針型で細かい鈍鋸歯を持つ。他の種では葉形は卵形から菱形、三角形など種々のものが見られる。



ケヤキ属の一種
卵形～楕円形で、特徴的な鈍鋸歯を持つ。現在のケヤキよりも変異の幅が大きい。



ブナ属の一種
卵形～楕円形で二次脈は現在のブナ属と似た平行脈であるが、鋸歯を持つことが多い。殻斗も産出。



ムカシグリ
長楕円形で二次脈は鋸歯に入る。鋸歯は鋭く針状になる。



シロモジ属の一種
三行脈、全縁で三裂片を持つ。裂片の間が丸く切れ込むのが特徴。切れ込みがなく卵形の種も多い。

とが分かります。

神戸層群の植物化石は保存状態が良く、種類も豊富なため、神戸市須磨区を中心にたくさん採集されてきました。その中から、代表的な種類の化石とその特徴を示します。

植物化石を見るときには、それがどんな種類の植物か、葉の形や葉脈の走り方、鋸歯（葉のふちのぎざぎざ）の様子を観察してみましょう。



シデニカエデ
裂片に分かれないカエデで長卵形。重鋸歯を持ち、サワシバ属に似る。



コバタケナラ
コナラ属で切れ込みの深いタイプ。切れ込みが主脈まで達するものも産出する。



サバリテス属の一種
ヤシ科。葉は大型で円形、掌状に多裂する。中肋が発達するのが特徴。中肋の発達しない別属も産出する。



ヒノキバヤドリギ属の一種
多数の節がありよく分枝する。東条湖の湖岸からのみ産出が知られている。



落合池（神戸市須磨区）周辺の今と昔

- 1: 2万5千分の1地形図 前開（大日本帝国陸地測量部1926年発行）と堀 治三朗さんによる書き込み（所蔵：神戸の植物化石を考える会）
- 2: 1960年の航空写真に堀コレクションの化石採集地点番号を示す
- 3: 1999年の航空写真
（2、3の航空写真は「須磨区70年の歩み」より）